

第4回 いなげボッチャカップ 大会申し合わせ事項

1. 競技規則

本大会は、「日本ボッチャ協会競技規則 2017-2020 V.2」及び大会申し合わせ事項によって実施する。

2. 競技方法

- ・大会は団体戦とし、各コート(A～Dコート)での総当たり戦を行い、各コート上位1チームが優勝。2位、3位決定戦は行わない。
- ・初級～上級などのクラス区分は行わない。
- ・1チーム3～4人とする。
- ・エンド途中の選手交代は認めず、1エンドと2エンドの間のみ可とする。

3. 総当たり戦

- ・各コート4チームで総当たり戦を行い、リーグ内の順位決定方法は、①勝ち数、②総得失点差、③総得点、④総勝ちエンド数の多いチームとする。
- ・それでも決まらない場合は、各チーム代表者による1球のみのタイブレークにより決定する。
- ・代表者の投球順は、ジャンケンによって決定する。

4. 使用コート・ゲーム数・時間

- ・コート寸法：横6m×縦12.5m。
- ・1ゲーム：2エンド。
- ・持ち時間：制限は設けませんが、進行表に従いスムーズな試合進行を心掛ける。
- ・投球練習：各ゲーム1エンド目の開始前に1人2球投球練習でき、2エンド目は無し。
- ・ボールの色は、代表者同士のジャンケンによって決める。

5. ボールの投球

- ・ボール投球時、スローイングボックスラインに触れている場合、審判から口頭注意する。
- ・スローイングボックスラインを踏んだまま投球したボールは無効とし、審判によって取り除き、ペナルティボールを伴う違反行為として取り扱う。
- ・ボールは投球する選手のみが触れることができ、自身のチームの投球順であっても、投球する選手以外は、ボールに触れることは認められない。投球者以外がボールに触れていた場合、審判から口頭注意する。
- ・同時に複数のボールが投球された場合、そのボールは審判によって選手の元に戻し、投球をやり直す。
- ・投球する選手以外はスローイングボックス内、スローイングラインから離れて待機する。ただし投球補助者は除く。

6. コートから出たボール

- ・全てのボールは、ラインに触れたりラインを超えたりした場合は、コート外に出たものとみなし、審

判によって取り除く。

7. 補助具等の使用

- ・補助具の使用、補助員による補助を必要とする場合は、申し込みの際にお伝え下さい。
- ・投球時にランプを使用する場合、ランプの先がスローイングボックスラインを越えてはならない。
- ・補助員は、スローイングボックス内から出て、コート内を見回することは出来ない。

8. コミュニケーション

- ・チームメンバー内でのコミュニケーション（会話）は認めるが、相手チームに対して迷惑になるような言動が見受けられた場合は、審判から口頭注意する。

9. 感染症対策

- ①各自來場前に、発熱、咳・咽頭痛、等について健康チェックを実施し、次のような場合は参加を中止する。
 - ・平熱+1度以上の発熱があった場合
 - ・息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさや軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある場合
 - ・その他体調不良の場合
 - ・感染症陽性者や濃厚接触者となり、自宅等での療養が必要な期間中の場合
- ②コミュニティセンター入口または大会受付で検温と手指消毒を行う。
※平熱+1度以上の発熱があった場合、息苦しさなど体調不良の場合は、参加を中止する。
- ③3つの密（密閉、密集、密接）を避け、プレイ中はマスク着用を推奨する。
※気温、湿度が高い中でマスクを着用する際は、熱中症のリスクが高くなるので十分に注意する。
- ④マスクを着用しない間は、会話や発声を控える。会話をするときはマスクを着用する。
- ⑤プレイの合間等、こまめな手洗い、手指消毒を行う。
- ⑥水分補給の際は、周囲の人となるべく距離を取って対面を避ける。
- ⑦途中で体調が優れなくなった場合は、速やかに申し出て帰宅する。
- ⑧各試合終了後、スタッフのアナウンスにより消毒作業を実施する。（ボール、コート、椅子等）